

お茶大での交換留学

釜山外国語大学

チョ・フィジュ

韓国の釜山外国語大学から1年間お茶の水女子大学に交換学生として来たチョ・フィジュと申します。後期は前期よりさらに早く過ぎたように感じます。私はこの1年間、日本に二度と来ない人のように、誰よりも日本を楽しみながら忙しく過ごしました。大したことを計画したわけではありませんが、私が日本で挑戦したかったことを全て成し遂げたので、後悔のない1年を過ごせました。今回の体験作文では、私が成し遂げたことを3つに分けて書きます。

まず、アルバイトをすることです。それで、後期には「ドトール」という日本のカフェ、チェーン店でアルバイトを始めました。韓国でもカフェでアルバイトをしたことがなかったので心配でしたが、この1年間は何でも挑戦してみようという気持ちだったので、やってみようと思いはじめました。この挑戦は私に日本での就職を考えさせてくれる経験になりました。仕事に慣れるまでの間、一緒に仕事をする社員の方は怒るのではなく、最初から仕事ができる人はいないと親切に仕事を教えてくださいました。日本に来る前には日本での就職は難しいと思っていた私が日本で就職したいと考え始めた、短いですが貴重な4ヶ月でした。

2番目に、難しくても学科の授業を受講することです。そのため、今学期は心理学の授業を受講しました。韓国での専攻は日本語で、心理に関する授業は教養でしか受けたことがなかったので心配でした。難しかったですが、知らない部分を検索してみるうちに心理学の勉強はもちろん、日本語の勉強もできた有益な時間でした。

3番目に、できるだけ日本を楽しむことです。私にはこの2022年が学生時代の最後だったので、勉強はもちろん、たくさんを経験したいという気持ちが大きかったです。それで夏には沖縄、冬には北海道、長崎、大阪、京都、福岡、横浜など日本で行きたかった場所に思いっきり行ってきました。またサークル合宿でバ

ーベキューと花火をしたり、お茶大の学祭だけでなく東京大学の学祭も楽しんだりしました。

1年間一日も休まずにした経験を通じて私は日本がもっと好きになり、日本での就職も夢見るようになりました。本当にかげがえのない1年でした。

最後に、1学期の間、たくさん手伝ってもらった方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。まず、指導教官の坂元先生、お忙しい中、お気遣い頂き本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、西坂先生の授業を受ける前は不安な気持ちでしたが、先生のお言葉のおかげで一学期を無事終えることができました。ありがとうございます。そして、国際課の大野さん、寮の管理人の方、ありがとうございました。最後に、今学期受けた授業を担当してくれた先生方に、心から感謝の気持ちを申し上げます。



